

「SIMULATION すざか 2030」 ルール説明

- みなさんは架空の自治体「えす市」の幹部職員・部長に任命されました。
- 「えす市」では、人口・税収とも減少傾向が続き、年々義務的経費が増大しており、財政状況はひっ迫しています。
- みなさんは部長として、それぞれ所管する事業を持っていますが、義務的経費の増大や新しい政策課題への対応のため、他の部長との対話によって事業の取捨選択を行い、2030年までの理想のまちづくりを目指してください。
- このゲームでは、必要な経費をねん出する方法は、事業を廃止するか、借金を借り入れるかのどちらかのみです。事業費を一律に削減したり（シーリング）、複数の事業を統合したりすることはできません。
- このゲームでは、1ラウンドで5年が経過します。また、1年は現実の5分とします。つまり、1ラウンドは25分間です。限られた時間の中で、「えす市」の予算案を作成してください。予算案は議会で説明し、可決されなければならないため、議員へ説明できるように議論を尽くしてください。
- 各ターンごとのシナリオや、事業カードに書かれた説明以外の設定は、皆さんで自由に設定することができます。ここは架空の「えす市」ですので、モデルとなった都市の実情に即する必要はありません。

えす市の概要

◆基本情報

- 地方の県庁所在地・中核市に隣接する人口5万人の都市

◆経済、産業

- 市内総生産：3,500億円
- 第2次産業40%、第3次産業55%。農業は果樹の産地として有名

◆自然環境、生活文化

- 明治から昭和初期にかけては製糸業で栄え、当時の繁栄を偲ばせる土蔵や大壁造りの商家が残り、蔵の町としても知られる
- 旧街道沿いに市街地が並び、リンゴ畑、ブドウ畑が広がる
- 市内を私鉄が走り「えす駅」がある。西部には高速道路のICが設置され、IC周辺への商業施設等の開発が進められている
- 県庁所在地に隣接するベッドタウンとしての利便性と豊かな自然が両立する都市

「SIMULATION すざか 2030」 シナリオ

2020年

市長訓示（ゲーム設定）



【市長】

私の理想とするまちづくりを実現するために、新任の部長の皆さんに伝えておきたいことがある。

- ◆ 我が「えす市」は、これまで「いきいきと暮らしやすいまちづくり」をめざして取り組んできたが、少子高齢化により生産年齢人口は減少し、老年人口の増加により、医療、介護等の社会保障費が増加してきている。今後も税収増が見込めないなか、社会保障費は膨らみ続ける見通しだ。
- ◆ 人件費、公債費は高止まりで削減する余地がなく、市債残高をいたずらに増やして後世に新たな負担を残すことも許されないし、今後は老朽化した市有建築物の資産管理にも対応していかなければならない。
- ◆ そんな財政状況であっても、「いきいきと暮らしやすいまちづくり」を今後も進めていくには、限られた財源のなかで様々な政策課題に的確に対応していく市政運営が求められている。
- ◆ 皆さんの辞令の裏にそれぞれ3つ書いてある事業は、わが「えす市」においてこれまで戦略的に推進してきた事業だが、限られた財源のなかで新たな政策課題に対応するうえでは、これらの事業を見直すこともやむを得ないと考えている。
- ◆ ただし、事業の見直しにあたっては単に「お金がない」ことを理由にするのではなく、事業の必要性や効果、他の事業との優先順位、事業廃止後の影響を考慮した代替策などについてしっかりと検討し、市民にわかりやすく説明し理解を求めていく必要がある。
- ◆ もちろん、各部長が自分の部のことばかり考え、全体での判断ができないようでは、「えす市」の未来はない。各部長同士で胸襟を開き、「対話」によってこの難局を乗り切ってほしい。
- ◆ 結論を急ぐあまり、納得していないことに首を縦に振る必要はない。対話の結果、皆さんが導き出した結論になぜ至ったのかをしっかりと説明できなければ、市民、議会の理解は得られない。そのためには「対話」のなかでお互いにしっかりと「納得」がいき、それを「説明」ができる結論に至る必要がある。
- ◆ 「対話」「納得」「説明」この3つを大事に、限られた財源と限られた時間のなかで、これから与えられる政策課題に的確に対応していただきたい。